

事務事業名		市有建物等維持管理事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業						
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目						
	施策名	19 地域活力を担う水産業の振興					会計	款	項	目	事業		
	基本事業名	03 漁業経営の安定化					01	06	03	02	01		
根拠法令													
所属	部課名	農林水産部 水産課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 — 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入								
	課長名	千葉 英彦											
	係名	振興係	電話	27-3111									
	担当者	鈴木 唯斗	内線	377									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)								全体計画(※期間限定複数年度のみ)					
・水産課が所管する12施設(むらづくり研修施設7、あわび生産センター2、海の恵み体験施設2、三陸パーキング1)について、適正な維持管理を行う。 ・主な業務は、保険料の支払い、施設修繕への対応、消防設備点検(委託) ・火災保険料、消防設備については、市が負担する。								総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		
											都道府県支出金		
											地方債		
											その他		
											一般財源		
											事業費計(A)		0
人件費	正規職員従事人数												
	延べ業務時間												
	人件費計(B)		0										
	トータルコスト(A)+(B)		0										

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
・施設修繕、消防設備点検及び保険料の支払い	ア 施設不具合発生数 件
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ 消防設備点検回数 回
前年度と同じ	ウ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
水産課所管施設(むらづくり研修施設、あわび生産センター、海の恵み体験施設、三陸パーキング)施設利用者	名称 単位
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	カ 所管施設数 施設
施設を適正に維持する。	キ
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	ク
安定して漁業を営む	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
	名称 単位
	サ 施設不具合修繕件数/修繕要望件数 %
	シ
	ス

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	単位						
	財源内訳	千円						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円		900				
	一般財源	千円	9,176	2,709	4,545	3,500	3,500	3,500
	事業費計(A)	千円	9,176	3,609	4,545	3,500	3,500	3,500
	人件費	人	1	1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間	80	40	80	40	40	40
指標	人件費計(B)	千円	320	160	80	40	40	40
	トータルコスト(A)+(B)	千円	9,496	3,769	4,625	3,540	3,540	3,540
	⑤活動指標	ア 件	20	5	5	5	5	5
		イ 回	4	4	4	4	4	4
		ウ						
	⑥対象指標	カ 施設	12	12	12	12	12	12
		キ						
		ク						
	⑦成果指標	サ %	73.3	100	100	100	100	100
		シ						
		ス						

事務事業ID	0590	事務事業名	市有建物等維持管理事業
--------	------	-------	-------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
各施設の整備年度は異なるが、市が所有する施設であることから、市が維持管理を行うこととなった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
平成18年4月1日から指定管理者制度がスタートし、これまで施設管理を受託していた団体が、指定管理者として指定され、施設を管理することとなった。
東日本大震災津波により、漁業地域交流センター、はまゆり会館、市あわび生産センター及び三陸蓄養センターが全壊し、指定管理業務も停止とした。このうち、あわび生産センターを除く施設については、地域や施設管理者から再建の要望が寄せられている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
施設によって、老朽化が進行しているものもあり、修繕、補修の要望が出されている施設がある。
東日本大震災津波により全壊した漁業地域交流センター、はまゆり会館、市あわび生産センター及び三陸蓄養センターのうち、あわび生産センターを除く施設については、地域や施設管理者から再建の要望が寄せられている。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ この事務事業を実施することで、関連施設が適正に維持管理され、漁業経営の安定に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 市が所有する施設であることから、維持管理に係る費用についても市が負担しなければならない。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 公の施設の管理に関する事業であり、対象・意図とも現状でのままでよい。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 被災した施設を復旧整備することで成果向上が図られるが、土地利用計画や復旧事業費の問題から検討には時間を要する。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 施設の維持管理が適正に維持されない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒(具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 水産関連事業で整備した施設に関しては類似の事業がないことから、統廃合・連携の余地はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 維持管理に係る委託料については、0円であり、修繕についても必要最低限のものを行っていることから削減の余地はない
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 日常的に点検が必要な業務については、既に使用者(指定管理者)に業務を委託している。 突発的に起きる施設の事故(損壊等)については、使用者(指定管理者)との協定の中で、その修繕を市が行うこととしており、外部発注が可能なものは委託し、市内部での事務処理のみの実施としていることから、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 通常の維持管理に要する費用については、使用者(指定管理者)が負担することとしていることから、費用負担の適正化の余地がない。

事務事業ID	0590	事務事業名	市有建物等維持管理事業
--------	------	-------	-------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・水産課所管のむらづくり研修施設(7)、三陸あわび生産センター(2)、海の恵み体験施設(2)は、平成18年4月1日から、これまで施設の管理を委託してきた団体を指定管理者として指定したが、東日本大震災により被災した施設があり、一部業務停止としている。今後、復旧の是非や方法等について地域とともに検討を深めていく必要がある。 ・老朽化している施設の修繕や、強風などの災害により、修繕に要する支出も多くなっている。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 震災の被害を受けなかった施設について、継続して事業を実施する。 被災した施設について、復旧の是非や方法について検討する必要がある。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上			●																			
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長		(氏 名)
2次評価者	農林水産部水産課	千葉 英彦

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 施設の維持管理が適正に維持されない。 ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 施設の管理を委託するなど経費節減に努め、適切な事務執行が行われている。 被災した施設について、復旧の是非や方法について検討する必要がある。																					
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 震災の被害を受けなかった施設について、継続して事業を実施する。 被災した施設について、復旧の是非や方法について検討する必要があるが、当分は現状維持とする。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持		●		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上			○																			
	維持		●																				
	低下																						

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
